

科目名	看護学概論	対象学生・時期	1年生・前期	
講師名	専任教員	講義時間(単位)	30時間(1)	
科目 目標	1. 看護の本質を理解し、総合保健医療体系の中で、看護の概念を明確にできる。 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として理解できる。 3. 人間のライフサイクルにおける看護の意義が理解できる。 4. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解し、看護活動のあり方が理解できる。 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題が理解できる。			
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野1 看護学概論 医学書院 ・看護者の基本的責務 日本看護協会出版会 ・看護の基本となるもの 日本看護協会出版会			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	看護学の構造	看護学の構造とその成り立ち 看護サービス提供の方法 ナイチンゲールと看護	講義	
2・3	看護の変遷	近代以前の看護 近代の看護 日本における看護の変遷 現代の看護	講義	
4	保健・医療・福祉システムと看護	医療費と社会保障制度 保健・医療・福祉の概念 保健・医療・福祉チームの中の看護 看護の役割と機能 看護の場に応じた活動	講義	
5～8	看護と人間・環境・健康	人間の理解 ライフサイクル 健康と生活 健康と病気 看護	個人ワーク GW 発表	
9・10	看護の理論と看護実践	1) 看護実践と看護研究 2) 看護における倫理の必要性 3) 看護理論 ・大理論 ・中範囲理論 ・小理論	講義 GW	
11・12	看護サービス提供の方法と安全・倫理	看護技術と看護過程 看護実践と倫理 倫理的ジレンマ	講義 討議	
13	看護を取り巻く社会環境	看護における法的側面 看護制度と看護行政	講義	
14	これからの看護の課題と展望	看護の職能団体 看護教育制度	講義	
15	単位認定試験	まとめ 筆記試験		
評価方法	筆記試験			
備考	フロレンス・ナイチンゲール著：「看護覚え書き」改訳第6版現代者 2017年 C・D・フRezネ/G・ペラン著：久世順子他訳、看護職とは何か 白水社			

科目名	看護倫理		対象学生・時期	3年生・前期	
			講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	非常勤講師				
科目目標	1. 看護における倫理的配慮の必要性を理解することができる 2. 倫理的課題に取り組むためのアプローチ方法を学ぶことができる				
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1・2	倫理とは 事例検討	看護倫理とは何か 看護の倫理原則		講義・ 演習	
3・4	現場での倫理的問題	専門職の責務と権利 事例検討 倫理分析シートを使用した事例検討		演習	
5・6	看護学生が抱える倫理的 問題	実習中の事例 倫理分析シートを使用した事例検討		演習	
7	看護学生が抱える倫理的 問題	実習中の事例 倫理分析シートを使用した事例検討		演習	
8	単位認定試験				
評価方法	筆記試験				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、実習グループごとに座ってください。 ・実習グループで座った、座席表の準備をお願いします。 ・授業後は、感想のアンケートの記入をお願いします。 				

科目名	共通基本技術		対象学生・時期	1年生・前期
			講義時間(単位)	30時間(1)
講師名	専任教員A 専任教員B			
科目目標	看護活動に共通する基本的看護技術を習得する。			
使用テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 基礎・臨床看護技術：医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	1. 感染予防の基礎知識	1. 感染とは 2. 感染の成立 3. 感染予防の原則 4. スタンダードプリコーション	講義 演習	B
2	2. 感染予防策	1. 感染経路別予防策 2. 感染性廃棄物の取り扱い	講義	B
	3. 無菌操作	1. 洗浄・消毒・滅菌とは 2. 滅菌物の取り扱いの原則 3. 滅菌物の確認 4. 滅菌パックの開け方の原則 5. 滅菌布の開け方の原則 6. 鑷子の取り扱いの原則	講義	B
3	4. 無菌操作の実施1	1. 滅菌手袋の装着 2. ガウンテクニック(清潔区域・不潔区域) 3. 滅菌パックの開け方 4. 鑷子の使い方 5. 滅菌物の渡し方	講義 演習 GW	B
4	5. 無菌操作の実施2	1. 滅菌パックの開け方 2. 鑷子の使い方 3. 滅菌物の渡し方	演習	B
5	6. 技術チェック	1. スタンダードプリコーション	技術チェック	B
6	7. 創傷の基礎知識	1. 創傷とは 2. 創傷治癒過程	講義	B
	8. 創傷管理の方法	1. 創傷処置の準備 2. 皮膚・創傷の観察 3. 創傷処置の物品と取り扱い 4. 創傷処置 5. 包帯法 6. 止血法	講義 演習	
7	I. 安全の意義と確保	1. 安全の意義 2. 医療事故と医療過誤の概念 1) 医療事故の増加 2) 医療事故と医療過誤 3) 主な医療事故と医療事故の分類 3. 医療事故発生の要因 1) 看護師がもつ安全を阻害する因子 2) 組織・環境がもつ阻害因子 3) 患者自身がもつ阻害因子 4) 看護業務の特性と事故	講義	B
8	II. 医療事故防止対策	1. 医療事故の分析方法 1) 事故分析の必要性と注意 2) 代表的な分析方法 2. 事故防止の基本的考え方 3. 主な医療事故とその予防策	講義	B

		<ul style="list-style-type: none"> 1) 療養生活の安全確保 2) 転倒転落 3) 外傷、チューブ類など装着物抜去 4) 与薬 5) 誤嚥・窒息 		
9		<ul style="list-style-type: none"> 4. 抑制の技術 <ul style="list-style-type: none"> 1) 身体拘束の必要性和倫理 2) 抑制を必要とする対象とその特徴 3) 抑制時の原則と注意 4) 抑制の方法 	講義	B
10	1. 看護における教育・指導とは	<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護における教育・指導・相談の目的 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護における患者教育 2. 指導技術の基本 <ul style="list-style-type: none"> 1) 対象者の理解 2) 成人学習の特徴 3) 成人学習を促進するための基本的な考え方 3. 教育・指導の形態 <ul style="list-style-type: none"> 1) 教育・指導の場 <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療機関 (2) 保健施設など 2) 指導の方法 <ul style="list-style-type: none"> (1) 個別指導 (2) 集団指導 4. 教育・指導・相談の進め方 <ul style="list-style-type: none"> 1) 指導内容の決定 2) 指導方法の選択 3) 指導教材の活用 	講義	A
11	2. 成人学習の特徴の理解①	<ul style="list-style-type: none"> 1. 成人学習の特徴の理解 <ul style="list-style-type: none"> 1) セルフケア理論 2) アンドラゴジー理論 3) エンパワメントモデル 4) 自己効力理論 	グループワーク ※各理論について詳細に調べ、資料にまとめる。	A
12	3. 成人学習の特徴の理解②	<ul style="list-style-type: none"> 1. 成人学習の特徴の理解 	グループワーク 発表	A
13	4. 対象の特徴に合わせた指導技術①	<ul style="list-style-type: none"> 1. 成人学習の特徴を踏まえた事例の検討 	講義 グループワーク	A
14	5. 対象の特徴に合わせた指導技術②	<ul style="list-style-type: none"> 1. 成人学習の特徴を踏まえた事例の検討 	グループワーク 発表	A
15	単位認定試験			
評価方法	筆記試験、技術チェック			
備考				

科目名	日常生活の援助技術 I (生活環境・コミュニケーション)		対象学生・時期	1年生・前期
			講義時間(単位)	30時間(1)
講師名	専任教員A 専任教員B			
科目目標	1. 人間にとっての環境の意義を理解することができる。 2. 入院患者の生活環境を整備する援助について理解することができる。 3. 環境調整としてベッドメイキングをすることができる。 4. コミュニケーションについて基本的知識を理解できる。 5. 看護者がコミュニケーションを学ぶ意義を理解できる。 6. コミュニケーションと人間関係形成のための関連について理解できる。 7. 自己のコミュニケーションの傾向に気づき、コミュニケーション力向上のためのスキルについて考えることができる。			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学3 基礎看護技術 II ;医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学2 基礎看護技術 I ;医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術;医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	人間にとっての環境	1. 環境とは 1) 環境因子 (1) 物理的環境因子(2) 社会的環境因子 (3) 人的環境因子 2) 環境の意義 (1) 外部環境(2) 内部環境(3) 恒常性 2. 環境が人間に与える影響とは 3. 看護における環境調整のあり方	講義 グループ ワーク	A
2	入院患者の生活環境	1. 入院患者の生活環境とその整備 1) 入院患者に生じる危険因子 2) 入院時の危険防止・事故防止を考えた環境 2. 入院患者に適した生活環境とは	講義 グループ ワーク	A
3	入院患者の病床と援助(1)	1. 寝具の種類と取扱い 2. ベッドの種類と取扱い 3. 包布を用いたクローズドベッドの作成	デモンストレーション 演習	A
4	入院患者の病床と援助(2)	1. スプレッドを用いたクローズドベッド・オープンベッドの作成 2. スプレッドを用いたクローズドベッドの実際	演習	A
5	入院患者の病床整備	1. 病床整備 1) 対象に合わせた環境整備のあり方	デモンストレーション 演習	A
6	入院患者の病床整備の実際	2. 臥床患者のシーツ交換 1) 使用済みシーツと新しいシーツの交換	演習 グループ ワーク	A
7	入院患者の生活環境(1)	1. 対象が生活する場としての環境 1) 病棟・病室の構造、寝床、寝具、屋内気候、温度、湿度、気流、採光、照明、空気、騒音などの環境因子の実際 2) 生活空間の安全確保の工夫 2. 対象を取り巻く人的環境 1) 人的環境の実際 2) 個別的なプライバシーやテリトリーの実際 3. 療養環境における対象の日常生活	病棟見学 (横浜医療センター) グループ ワーク	A

		1) 健康回復の段階に応じた環境づくり		
8	入院患者の生活環境 (2)	病棟見学のまとめ・発表 見学病棟ごとの内容を共有する	グループ ワーク	A
9	病床作成の実際	包布を用いたクローズドベッドの作成	技術練習	A
10	技術チェック	包布を用いたクローズドベッドの作成	技術チェック	A
11	コミュニケーションの意義 と目的	1. コミュニケーションとは 2. 看護学でコミュニケーションを学ぶとは 3. コミュニケーションの種類 (言語的コミュニケーションと非言語的 コミュニケーション) 4. コミュニケーションの構成要素	講義	B
12	関係構築のためのコミュニ ケーションの基本	1. 接近的コミュニケーションの原理 2. 接近的行動と非接近的行動 1)患者に寄り添う態度とは 2)コミュニケーションに必要な態度 (身だしなみ、表情、視線、距離、姿勢、 ジェスチャー、声のトーン) 3. 一方向と双方向のコミュニケーション	講義 演習	B
13	効果的なコミュニケーショ ン	1. 傾聴とは 1)無条件の肯定的配慮 2)共感的理解 3. 情報収集の技術 (オープンエンドクエスチョンとクローズドクエスチョン) 4. アサーティブネス	講義 演習	B
14	効果的なコミュニケーショ ンの実際	1. 看護におけるコミュニケーション、 意図的なかかわり 2. コミュニケーション障害への対応 (失語症、認知症、意識障害のある人)	講義	B
15	単位認定試験			
評価方法	単位認定試験(筆記試験) 生活環境(60点)とコミュニケーション(40点)の合算100点で60点以上で合格			
備考	技術チェック 100 点 包布を用いたクローズドベッド作成(80点以下は再チェック)			

科目名	日常生活の援助技術Ⅱ (食事・排泄)		対象学生・時期	1年生・前期
			講義時間(単位)	30時間(1)
講師名	専任教員A 専任教員B			
科目目標	1. 人間にとっての食事・栄養の意義が理解できる 2. 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメントができる 3. 対象に合わせた食事摂取の援助が実施できる 4. 摂食・嚥下に障害のある対象への援助方法が理解できる 5. 非経口的栄養摂取の援助について理解できる 6. 人間にとっての排泄の意義について理解できる 7. 排泄の援助を提供する看護師に求められる姿勢が理解できる。 8. 排泄のアセスメントと援助方法の選択ができる 9. 自然排泄の援助の方法が理解できる 10. 尿器・便器を使用した床上排泄の援助ができる 11. 導尿・浣腸の援助方法を理解できる			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術；医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	人間にとっての食事・栄養の意義	1. 食事の意義 (1) 生理的な意味 (2) 心理的な意味 (3) 社会的な意味 2. 食事と栄養のメカニズム(消化・吸収) (1) 消化・吸収の器官と役割 (2) 嚥下と咀嚼・味覚 (3) 食事摂取と排泄の関係 (4) 食欲と食行動 (5) 摂取行動 3. 栄養状態のアセスメント (1) 全身状態の観察 (2) 身体計測・発達段階を考慮した算出法 (3) 血液・尿などの臨床検査データ (4) 栄養摂取量・エネルギー必要量の基準 (5) 水分・電解質のアセスメント 4. 摂食行動のアセスメント 5. 嚥下機能のアセスメント	講義 GW	A
2	食事援助の種類と方法	1. 医療施設で提供される食事 (1) 一般食(普通食) (2) 特別食 (3) 食形態 2. 食事介助の基本 (1) 環境 (2) 姿勢 (3) 自助具 3. 摂食・嚥下訓練の方法	講義 GW	A
3	食事援助の方法 援助の必要性 援助方法の立案	1. 食事摂取の援助方法 2. 対象に合わせた食事摂取の援助方法	講義 GW	A
4	食事援助の実際	1. 対象に合わせた食事援助の実際	講義 GW	A
5	非経口的栄養摂取の方法	1. 非経口的栄養摂取の援助 (1) 経管栄養法 (2) 胃瘻 (3) 中心静脈栄養	講義 GW	A
6	排泄の意義	1. 人間にとって排泄とは 1) 生理的(身体的)意義	講義	B

		<ul style="list-style-type: none"> 2) 心理・社会的意義 3) 排泄のメカニズム <ul style="list-style-type: none"> (1) 排尿のメカニズム (2) 排便のメカニズム 2. 排泄援助を提供する看護師の役割 <ul style="list-style-type: none"> 1) 排泄の意義についての理解 2) 援助を受ける対象の理解 		
7	排泄のアセスメントと看護	<ul style="list-style-type: none"> 1. 排泄のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> 1) 排尿の正常と異常 2) 排泄障害 2. 排便のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> 1) 排便の正常と異常 2) 排便障害 3) 下痢・便秘 3. 排泄行動 4. 心理社会的アセスメント 	講義	B
8	自然排泄の介助の方法	<ul style="list-style-type: none"> 1. トイレの排泄介助 2. ポータブル便器（トイレ）の使用法 3. 床上排泄介助 <ul style="list-style-type: none"> 1) 尿器の使用法 2) 便器の使用法 	講義	B
9	排尿用具を用いた排泄の援助の実際①	<ul style="list-style-type: none"> 1. おむつ体験（体験） 	演習	B
10	排尿用具を用いた排泄の援助の実際②	<ul style="list-style-type: none"> 1. 尿器を使用した排泄の援助の実際 2. 便器を使用した排泄の援助の実際 	演習	B
11	排尿障害のある対象者への援助の方法：導尿	<ul style="list-style-type: none"> 1. 導尿とは 2. 導尿が必要な対象(男性・女性) 3. 一時的導尿 4. 持続的導尿 5. 膀胱留置カテーテル挿入中の対象への援助 	講義	B
12	導尿の援助の実際	一時的導尿の実施	演習	B
13	排便障害のある対象者への援助方法：浣腸	<ul style="list-style-type: none"> 1. 便秘の援助方法：浣腸 <ul style="list-style-type: none"> 1) 意義・目的 2) 種類; 高圧浣腸（石鹼・食塩・微温湯） 3) グリセリン浣腸 2. 摘便の援助 	講義	B
14	浣腸の援助の実際	グリセリン浣腸の援助	演習	B
15	単位認定試験 まとめ			
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	日常生活の援助技術Ⅲ (体位と移動)		対象学生・時期	1年生・前期
			時間数(単位)	22/30時間(1)
講師名	専任教員			
科目目標	1. 人間にとって姿勢・体位の意義について理解できる。 2. ボディメカニクスについて理解できる。 3. 体位の種類・特徴について理解できる。 4. 体位変換の目的・方法・留意点について理解できる。 5. 安全・安楽な体位変換ができる。 6. 車椅子・ストレッチャーの点検方法を理解できる。 7. 安全・安楽な移動、移送の方法と留意点を理解できる。 8. 安全・安楽な移動、移送ができる。 9. 患者役の経験を通して援助を受ける対象の心理について考えることができる。			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	姿勢とボディメカニクス	1. 姿勢 2. ボディメカニクス 3. 看護者側からみたボディメカニクス技術の基本	講義	
2	安静による弊害とその援助	1. 安静による弊害 1) 身体に及ぼす影響 2) 精神に及ぼす影響 3) 安静による弊害に対するアセスメントと援助 2. 体位について 1) 基本体位・良肢位 2) 体位の種類 3) ポジショニング 3. 褥瘡と予防 4. 褥瘡予防体位の実際	講義	
3	安全・安楽な体位変換の方法①	1. 安全・安楽な体位変換の方法 1) 床上での水平移動 2) 仰臥位から側臥位 3) 仰臥位から腹臥位 4) 仰臥位から端座位 5) 端座位から立位 6) ベッド柵の取り扱い	講義	
4	安全・安楽な体位変換の実際②	1. 安全・安楽な体位変換の実際 1) 床上での水平移動 2) 仰臥位から側臥位 3) 仰臥位から腹臥位 4) 仰臥位から端座位 5) 端座位から立位 6) ベッド柵の取り扱い	演習	
5	安全・安楽な移動・移送の方法①	1. 移動、移送援助の目的 2. 移動、移送援助時の留意点 3. 移動援助に使用する物品 4. 移動、移送援助の方法 1) 車椅子 2) ストレッチャー	講義	
6	安全・安楽な移動・移送の実際②	1. 移動、移送援助の実際 1) 車椅子 2) ストレッチャー	演習	

7・8	対象に合わせた体位と移送の実際	1. 体位変換と移送の援助の選択 2. 援助を行う上での留意点	演習	
9・10	安全・安楽な体位変換、移動、移送の実際	1. 体位変換の実際 1) 床上での水平移動 2) 仰臥位から側臥位 3) 仰臥位から腹臥位 2. 移動の実際 1) 仰臥位から端座位 2) ベッドから車椅子への移乗 3. 移動の実際 1) 車椅子の移送 4. 麻痺のある対象の移動 1) ベッドから車椅子への移乗	校内 実習 技術 チェック	
11	単位認定試験	単位認定試験 まとめ		
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	日常生活の援助技術Ⅲ (活動・休息・リラクゼーション)		対象学生・時期	1年生・前期	
			講義時間(単位)	8/30時間(1)	
講師名	専任教員				
科目目標	1. 活動・休息・リラクゼーションの意義が理解できる。 2. 安全・安楽に活動・休息・リラクゼーションを促す援助が理解できる。 3. 安静による弊害が理解でき、必要な援助がわかる。 4. 睡眠の意義とメカニズムが理解できる。 5. 睡眠を促す援助が理解できる。 6. 褥法の意義が理解でき、安全に実施することができる。				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	活動の意義と援助	1. 活動について 1) 活動の意義 2) 活動のメカニズム 3) 活動を続けることによる影響 4) 活動のアセスメントと援助 5) 療養生活におけるレクリエーション 2. 活動と休息のバランス		講義	
2	睡眠・休息の意義と援助	1. 休息について 1) 休息の意義 2) 休息のメカニズム 3) 休息の種類 4) 休息のアセスメントと援助 2. 睡眠について 1) 睡眠の意義 2) 睡眠の種類とメカニズム 3) 睡眠障害の種類と要因 4) 睡眠のアセスメントと安眠への援助		講義	
3	安楽のための援助 の実際	1. 安楽確保の技術 1) 身体的援助 (1) 筋弛緩法、呼吸法 (2) マッサージ、 指圧 (3) 音楽療法、アロマセラピー 2) 精神的援助 (1) 傾聴 (2) タッチング		講義	
4	褥法の援助と実際	1. 褥法について 1) 褥法とは 2) 温める、冷やすことによる影響 3) 褥法の種類と適応 4) 禁忌 2. 褥法援助の実際 1) 湯たんぽ 2) 冷枕		講義	
評価方法	筆記試験：体位と移動と合わせて100点				
備考					

科目名	日常生活援助技術Ⅳ (衣生活・清潔)		対象学生・時期	1年生・前後期	
			講義時間(単位)	30時間(1)	
講師名	専任教員A 専任教員B				
科目目標	1. 人間にとっての衣生活の意義を理解し、安全・安楽に衣服を整える技術が習得できる 2. 人間にとっての清潔の意義を理解し、安全・安楽に身体の清潔を保持する技術が習得できる。 3. 寝衣交換、清潔援助を受ける患者の心理を考える事ができる。				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	衣生活の意義	1. 衣生活とは 1) 目的・意義 2) 熱産生と熱放散 2. 目的に合わせた寝衣の選択 3. 和式寝衣の基本的な扱い 4. 病床上で寝衣交換援助を受ける患者の心理		講義	A
2	臥床している対象の和式寝衣の交換	1. 安全・安楽を考えた寝衣交換の基本 1) 安全・安楽 2) 清潔に美しく 3) 脱健と着患 4) 関節の支え方 5) しわの伸ばし方		演習	A
3	身体の清潔の意義	1. 人間にとっての身体の清潔の意義 1) 生理的意義・皮膚の解剖生理 2) 心理・社会的意義 2. 身体の清潔に関するアセスメントと援助方法 3. 入浴による生体反応 1) 温熱刺激による作用 2) 静水圧作用 3) 浮力作用		講義	B
4	整容・口腔ケアの意義	1. 整容の・口腔ケアの意義 1) 口腔の解剖生理 2. 整容・口腔ケアが必要な患者のアセスメント 3. 整容・口腔ケアの方法・留意点 4. 安全・安楽を考えた整容・口腔ケア 5. ケアを受ける患者の心理		講義 演習	B
5	頭皮・頭髪の清潔	1. 頭皮の解剖生理 2. 洗髪の援助が必要な患者のアセスメント 3. 洗髪の種類・エビデンス 4. 洗髪の方法 1) ケリーパッドを用いた洗髪 2) 洗髪車を用いた洗髪 3) 洗髪台での洗髪 4) ドライシャンプー		講義	B
6	頭皮・頭髪の清潔援助の実際	1. ケリーパッドを用いた臥床患者の洗髪 1) ケリーパッドの使用方法		演習	B

		2) 安全・安楽を考えた洗髪の方法 3) 洗髪の援助を受ける患者の心理		
7	全身清拭の意義	1. 全身清拭の意義 2. 全身清拭の援助が必要な患者のアセスメント 3. 清拭の種類 1) 石鹼清拭 2) 温湯清拭 3) 熱布清拭	講義	B
8	全身清拭の実際	1. 石鹼を用いた臥床患者の全身清拭 1) 環境 2) 物品 3) 順序性 4) 拭き方 5) 観察の視点	演習	B
9	臥床患者の全身清拭の実際	1. 安全・安楽な臥床患者の石鹼を用いた全身清拭の方法 2. 援助前・中・後の患者への説明、配慮 3. 全身清拭の援助を受ける患者の心理	演習	B
10			演習	B
11	足浴・手浴の意義	1. 部分浴の意義 2. 部分浴が必要な患者のアセスメント 3. 足浴の方法・留意点 4. 手浴の方法・留意点	講義	B
12	陰部の清潔	1. 男性・女性外陰部の構造 2. 陰部を清潔にする意義 3. 陰部洗浄の方法	演習	B
13	足浴・手浴の実際	1. 安全・安楽を考えた足浴・手浴の実際 2. 仰臥位での足浴、端座位での足浴、 ベッド上での手浴	演習	B
14	技術チェック	1. 臥床患者の清拭	技術チェック	B
15	まとめ・単位認定試験			
評価方法	筆記試験			
備考				

科目名	フィジカルアセスメント	対象学生・時期	1年生・後期	
		講義時間(単位)	30時間(1)	
講師名	専任教員			
科目目標	看護における観察の重要性を理解し、対象の健康状態を把握し、アセスメントする技術が習得できる。			
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	1. 観察とは 2. バイタルサインの観察とアセスメント①	1. 観察の目的と意義 2. バイタルサインの目的と意義 3. バイタルサインの観察 4. 体温のアセスメント	講義	
2	3. バイタルサインの観察とアセスメント②	1. 呼吸のアセスメント 2. 脈拍のアセスメント	講義	
3	4. バイタルサインの観察とアセスメント③	1. 血圧のアセスメント	講義	
4	5. バイタルサインの観察とアセスメント④	1. 血圧測定の実際	演習	
5	6. バイタルサインの観察とアセスメント⑤ 7. 報告と記録	1. 意識状態のアセスメント 2. 報告と記録の目的と方法	講義	
6	8. バイタルサイン測定	演習(体温、呼吸、脈拍、血圧の測定)	演習	
7	技術チェック	体温、呼吸、脈拍、血圧の測定演習 まとめ	技術 チェック	
8	9. フィジカルアセスメントとは	1) フィジカルアセスメントの目的・方法・留意点 2) フィジカルイグザミネーションとは 3) 健康聴取歴の面接について 4) 身体診察の基本 5) 計測	講義	
9	10. 骨・運動器系のフィジカルアセスメント	1) 骨・運動器系のフィジカルアセスメントの目的 2) 骨・運動器系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3) 骨・運動器系のフィジカルアセスメントの実際	講義	
10	11. 呼吸器系のフィジカルアセスメント	1) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的 2) 呼吸器系フィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際	講義	
11	12. 循環器系のフィジカルアセスメント	1) 循環器系のフィジカルアセスメントの目的	講義	

		2) 循環器系フィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3) 循環器系のフィジカルアセスメントの実際		
12	1 3. 腹部のフィジカルアセスメント	1) 腹部のフィジカルアセスメントの目的 2) 腹部のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3) 腹部のフィジカルアセスメントの実際	講義	
13	1 4. 神経系のフィジカルアセスメント	1) 神経系のフィジカルアセスメントの目的 2) 神経系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識 3) 神経系のフィジカルアセスメントの実際	講義	
14	1 4. 他器官別フィジカルアセスメント	1) 各フィジカルアセスメントの目的と実際 (1) 感覚器 (2) 乳房 (3) 直腸、肛門 (4) 生殖器 (5) 頭頸部	講義	
15	単位認定試験			
評価方法	筆記試験 *技術チェックは 80 点以上で合格とする。			
備考				

科目名	看護過程	対象学生・時期	1年生・後期	
		講義時間(単位)	30 時間(1)	
講師名	専任教員			
科目目標	1. 看護過程の構成要素を理解し、看護過程を展開する基本的技術が習得できる			
使用テキスト	①系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術 I 医学書院 ②看護診断ハンドブック 医学書院 ③看護過程に沿った対症看護-病態生理と看護のポイント- 学研 ほか			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	ガイダンス 看護過程と看護	・問題解決思考過程と看護過程 ・看護過程と記録 ・看護過程の構成要素	講義	
2	健康障がいと人生にもたらす影響と対象の捉え方	・人が生きる上での「健康と健康障害」 ・看護過程に必要な看護師の能力 ・対象を捉えるアセスメントの枠組み	講義 演習	
3	看護過程の構成要素(1) アセスメント (情報収集・分析)	・情報源と情報の種類(主観的情報と客観的情報) ・アセスメントの過程とアセスメントの視点 ・アセスメントの枠組みに沿った情報	講義 演習	
4	看護過程の構成要素(1) アセスメント (情報収集・分析)	・情報の分類と整理 ・情報の意味・解釈	講義 演習	
5	看護過程の構成要素(1) アセスメント	・情報の意味・解釈	講義 演習	
6	(情報収集・分析)	・Cueの特定、推論 ・クリティカルシンキング		
7	全体像の図式化	・関連図とは、関連図の役割、種類	講義 演習	
8		・書き方のルール		
9	看護過程の構成要素(2)	・看護診断ラベル・関連(リスク)因子・症状徴候	講義 演習	
10	看護問題の明確化	・照合、看護診断の表記 ・看護問題と共同問題		
11	看護過程の構成要素(3)看護計画	・優先順位の考え方 ・看護目標と成果 ・標準看護計画・クリティカルパス	講義 演習	
12	実習に向けた看護過程(ヘンダーソン)	・ヘンダーソンの考え方(基本的欲求) ・ヘンダーソンによるアセスメントの枠組み	講義 演習	
13	看護過程の構成要素(4)(5)実施・評価	・実施上の留意点(安全、安楽、自立) ・倫理的配慮(説明と同意、プライバシー) ・評価の視点および時期 ・評価と看護計画の修正	講義	
14	看護記録と情報管理	・看護記録の目的と機能 ・看護情報管理・個人情報 ・看護記録の種類	講義	
15	単位認定試験・まとめ			
評価方法	筆記試験(50点) 課題提出(40点) 授業参加度(10点) *無断欠席およびやむを得ないと判断できない欠席があった場合、3点/回減点します。			
備考				

科目名	診療に伴う技術Ⅰ (診察・検査・処置)		対象学生・時期	1年生・後期
			講義時間(単位)	30時間(1)
講師名	専任教員A 専任教員B			
科目目標	1. 診察・検査・処置の目的を理解し、安全安楽に援助するための技術が習得できる			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 基礎・臨床看護技術：医学書院			
回数	主 題	主な学習内容	授業形態	担当
1	診察・検査・処置における 看護師の役割	1. 診療と診察 2. 診察の意義 1) 診察の目的 2) 診察の方法 3) 診察時の看護 3. 検査・処置の意義 1) 検査・処置の目的 2) 検査の種類と特徴 3) 処置の種類と特徴 4) 実施上の留意点 4. 検査・処置における看護師の役割 1) 検査・処置の説明 2) 苦痛の軽減 3) 危険の察知と対処 4) 医師や技師との連携 5. 検体の取り扱い 1) 6R 2) 必要量 3) 保存方法 4) 時間	講義	A
2	検査① 検体検査	1. 尿検査 2. 便検査 3. 喀痰検査 4. 胸水・腹水検査	講義	A
3	検査② 検体検査	1. X線単純撮影検査 2. CT検査 3. MRI検査 4. 核医学検査： ラジオアイソトープ・シンチグラフィ 5. 超音波検査 6. 心電図検査 7. 内視鏡検査	講義	A
4	処置① 吸入療法	1. 吸入療法 1) 酸素吸入療法 (1) 酸素とは (2) 酸素療法の適応 (3) 酸素療法時の注意点 (4) 酸素吸入の方法と看護 2) ネブライザー吸入療法 (1) 目的 (2) 適応 (3) 方法と看護： 超音波とジェットネブライザー (4) 注意点 (5) ネブライザー吸入療法の実際	講義 演習の事前 課題	A
5	処置② 吸入の実際	1. 吸入療法の実際 1) 酸素吸入 2) 中央配管、酸素ボンベの取り扱い	演習	A
6	処置③ 吸引	1. 吸引 1) 口鼻腔吸引 (1) 適応 (2) 方法と看護 (3) 合併症、注意点 2) 気管内吸引 (1) 適応 (2) 方法と看護 (3) 合併症、注意点	講義 演習の事前 課題	A

7	処置④ 吸引の実際	1. 吸引の実際 1) 口鼻腔吸引 2) 気管内吸引 (開放式)	演習	A
8	処置⑤ 穿刺、洗浄	1. 穿刺 1) 胸腔穿刺 2) 腹腔穿刺 3) 腰椎穿刺 4) 骨髄穿刺 2. 洗浄 1) 胃洗浄 2) 膀胱洗浄	講義	A
9	安全安楽な採血と看護師の役割	1. 採血法の基礎知識 1) 血液検査と種類 2) 採血に適した静脈の位置と名称 2. 安全な採血 1) 採血時の合併症 2) 安全安楽な採血方法と根拠 3) 採血に伴う看護師の法的責任と倫理	講義	B
10	静脈血採血の方法	1. 注射器を用いた静脈血採血 1) 採血の方法 2) 使用器具	講義・演習	B
11	静脈血採血の実際1	1. 注射器を用いた静脈血採血	演習	B
12	静脈血採血の実際2	1. 採血ホルダーを用いた静脈血採血 (真空管採血) 1) 採血ホルダーの注意点について 2) デモンストレーション 2. 翼状針を用いた採血について 3. 動脈血採血	講義 演習	B
13	静脈血採血の実際3	1. 採血ホルダーを用いた静脈血採血	演習	B
14	技術チェック	採血ホルダーを用いた静脈血採血	演習	B
15	単位認定試験	まとめ		
評価方法	筆記試験 技術チェックは80点以上となるまで技術の確認を行う。			

科目名	診療に伴う技術Ⅱ	対象学生・時期	1年生・後期	
		講義時間(単位)	30時間(1単位)	
講師名	専任教員			
科目目標	与薬の目的を理解し、安全に与薬するための技術が習得できる			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護 医学書院 今日の治療薬2019 南江堂			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	1. 与薬の基礎知識と 看護師の役割	1. 与薬の基礎知識 1) 与薬の目的 2) 与薬の基礎知識 3) 看護師の役割	講義	
2	2. 与薬の方法	2. 経口与薬の方法 1) 経口与薬の適応 2) 内服薬の種類 3) 与薬方法 4) 服薬支援	講義	
3		3. 外用薬与薬の方法 1) 外用薬の種類 2) 外用薬の与薬方法 3) 外用薬の吸収経路	講義	
4		4. 経口与薬の実際 1) 薬剤・患者確認 2) 経口与薬の実際	講義 演習	
5		技術チェック：内服	技術 チェック	
6		5. 注射の基礎知識 1) 注射と法律 2) 注射の種類 3) 注射器・注射針の種類と選択	講義	
7		6. 注射の方法 1) 注射薬の準備、取り扱い	講義	
8		2) 注射方法 ①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉内注射 ④静脈内注射 ・ワンショット、末梢静脈内注射、中心 静脈カテーテル	講義	
9		3) 注射準備Ⅰ ・アンプルからの吸い上げ	演習	
10		5) 注射の実際Ⅰ ・筋肉内注射	演習	
11		6) 注射の実際Ⅱ ・点滴準備：バイアルからの吸い上げ ミキシング	演習	
12		7) 注射の実際Ⅲ ・点滴準備：プライミング 三方活栓の取り扱い	演習	

13		8) 注射の実際Ⅱ ・点滴管理：滴下調節・観察	演習	
14	3. 輸血の看護	1. 輸血管理 1) 輸血の目的 2) 輸血の基礎知識 3) 輸液時の看護師の役割 4) 輸血時の看護	講義	
15	単位認定試験	筆記試験 まとめ	試験	
評価方法	1. 演習態度 2. 課題への取り組み 3. 筆記試験			
備考	*演習では針を取り扱うため、この授業においては演習時までに手順を覚えて臨む			

科目名	臨床看護総論		対象学生・時期	1年生・後期
			講義時間(単位)	30時間(1)
講師名	専任教員A 臨床工学技士B			
科目目標	1. 健康障害(疾病)によって生じる生体の変化と、その変化が日常生活に影響を及ぼすことを理解できる。 2. 臨床での看護提供は、既習学習(解剖生理・病理学・疾病論等)と看護の目的・方法(日常生活援助Ⅰ～Ⅳ、診療の補助技術Ⅰ・Ⅱ)を統合して、実践することが理解できる。			
使用テキスト	看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	健康障害と看護	1. 臨床看護とは 2. 健康障害をもつ対象・家族の理解 3. 健康状態・主要症状を示す対象の看護	講義	A
2 3	主要症状を示す患者の看護(呼吸)	1. 呼吸器の解剖生理 2. 呼吸器系に起こりやすい健康障害 3. 呼吸機能の代表的な症状のメカニズムとアセスメント 呼吸困難、息切れ、発熱、咳嗽、喀痰、 4. 肺炎の事例をとおして日常生活への影響と看護 呼吸困難、発熱、咳嗽、の看護	講義	A
4 5	主要症状を示す患者の治療と看護(呼吸) 経過別看護(終末期)	1. 事例 ・化学療法、放射線療法、 2. 日常生活への影響とそれを支える看護 1) 食事・栄養・排泄への援助 2) 安楽の障害 ・痛み、吐き気、嘔吐時の看護 3. 終末期の看護	講義	A
6	主要症状を示す患者の治療と看護(循環)	1. 心臓の解剖生理 2. 心臓系に起こりやすい健康障害 3. 循環機能の代表的な症状のメカニズムとアセスメント 胸痛、動悸、失神、ショック、浮腫、血圧異常など	講義	A
7 8	主要症状を示す患者の治療と看護(循環) 経過別看護(急性期)	1. 事例(心筋梗塞)患者の看護 1) 心筋梗塞の病態生理 2) 心筋梗塞の治療をうける患者の看護 ・集中治療の目的・適応と看護 ・輸液療法の目的・適応と看護 ・手術療法の目的・適応と看護(創傷の処置含む) 2. 心筋梗塞による日常生活への影響とそれを支える看護 3. クリテイカル領域と周手術期	講義	A
9 10	主要症状を示す患者の看護(栄養・代謝)と経過別看護(慢性期)	1. 栄養障害・代謝障害のメカニズムとアセスメント 2. 栄養障害・代謝障害の治療をうける患者の看護 ・食事療法 3. 慢性期の看護	講義	A
11 12	主要症状を示す患者の看護(意識障害) リハビリテーション期	1. 意識障害のメカニズム とアセスメント 2. 意識障害の治療をうける患者の看護 3. リハビリテーション期の看護	講義	A

13	12. ME 機器の基礎知識	1) ME 機器の構造 2) ME 機器の管理	講義	B
14	13. ME 機器の実際	1) 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い 2) 人工呼吸器の取り扱い 3) フットポンプの取り扱い	演習	B
15	単位認定試験			
評価方法		筆記試験		
備考				

科目名	看護研究		対象学生・時期	2年生・後期	
			講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	非常勤講師				
科目目標	1. 看護研究の意義や必要性を学び研究方法の基礎が理解できる。				
使用テキスト	看護における研究 日本看護協会出版会				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	看護における研究の役割と研究過程	看護研究の意義と目的・種類・研究過程		講義 レポート 1	
2	科学的根拠とは何か	EBNとは 研究疑問とは		講義 レポート 2	
3	研究デザインの位置づけ	研究デザイン 研究における倫理		講義	
4	文献検討と研究計画	文献検索の意義・活用 文献の整理・読み方 研究計画書		講義 レポート 3	
5	研究論文の読み方	論文の構成・研究論文のクリテイク		講義	
6		研究論文のクリテイク		演習	
7	研究方法の一つとしての事例研究の理解	事例研究・ケーススタディ		講義	
8	単位認定試験				
評価方法	筆記試験・レポート				
備考					

科目名	看護研究演習	対象学生・時期	3年生・前期～後期	
		講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	専任教員			
科目目標	1. 看護実践の意味づけをし、ケーススタディとしてまとめ、発表できる			
使用テキスト	南裕子編集：看護における研究，日本看護研究出版会，2008.			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	ケーススタディの意義	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケーススタディとは 2. ケーススタディの目的 3. 理論と研究との関係 4. 看護実践の中の研究的な視点 5. ケーススタディ作成にあたっての倫理的態度 6. ケーススタディの実際 	講義	
2	ケーススタディの計画と文献検討	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケーススタディの計画 <ol style="list-style-type: none"> 1) テーマの設定 2) ケーススタディ計画書の作成 2. 文献検討の必要性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 文献を用いる意義 2) 現象と理論 3) 文献検索の方法(図書室) 	講義 演習	
3	ケーススタディ論文の構成要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の構成要素と内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 表題 2) はじめに 3) 事例紹介 4) 看護の実際 5) 考察 6) 結論 7) おわりに 2. 論文記載への取り組み方 	講義 演習	
4	ケーススタディ計画書作成	1. 研究計画書作成の実際と指導	個別指導	
5	ケーススタディ論文作成	1. 研究論文作成の実際と指導	個別指導	
6	ケーススタディの発表準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 抄録の作成 2. 口頭発表の内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発表原稿の作成 2) スライドの作成 3) 口頭発表の実際、質疑応答 	講義	
7	ケーススタディ発表会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表の仕方 分かりやすいプレゼン、時間配分 2. 質疑応答、質問内容、質問への答え方 	発表会	
8				
評価方法	ケーススタディの取り組み、レポート内容、発表内容にて評価			
備考				